

5月25日は
世界甲状腺デー
(World Thyroid Day)

市民健康講座・神戸会場

知ってほしい 甲状腺のこと

こうじょうせん

講演

「ホルモンって、甲状腺って何ですか？」

高橋 裕 神戸大学医学部医学研究科 権医師・内分泌内科准教授

ホルモンは血中を流れる化学伝達物質で、全身の臓器の機能や成長を調節します。下垂体や甲状腺、副腎、卵巣、精巣などの内分泌腺で作られ、ごく微量で強く作用します。近年では研究が進み、身の様な臓器でもホルモンが作られていることが明らかになりました。例えば脂肪組織は「レブチノン」というホルモンを作り、食欲を調整しています。また、母性本能や信頼感を促す「オキシトシン」のように、多くのホルモンは体とともに心も調節しています。

「甲状腺ホルモン」を作る甲状腺は首の前の部分にあり、15~20gほどの大きさで蝶が羽を広げた形をしています。甲状腺ホルモンは海藻類に多く含まれるヨウ素から作られ、全身の代謝を調整する働きをしています。甲状腺に異常があると、腫れる場合もありますし、甲状腺ホルモンは多くても少くとも心身の不調を招きます。症状は様々で、更年期障害や認知症、うつ病と間違われるものもありますので、血液検査を受けることが重要です。

講演

「甲状腺ホルモンが多くなると？ 少なすぎると？」

旗谷 雄二 神戸市立医療センター中央市民病院 権医師・内分泌内科医長

甲状腺ホルモンが過剰になる状態を「甲状腺中毒症」といい、汗かき、体重減少、動悸、イライラなどの症状が表れます。一番多い「ハセドウ病」は甲状腺の腫れや眼球突出が現れ、放置すると甲状腺クリーゼという死に至る重大な病となる場合もあります。一般的な治療は2年ほどの中経過観察です。薬の副作用が出たり、治りが悪い場合は手術やアイトープ治療（放射性ヨウ素内用療法）になります。

逆に少ない状態が「甲状腺機能低下症」で、寒がり、便秘、声の嗄れ、倦怠感、うつななどが見られます。その原因で最も代表的なのが「橋本病」で、中年女性の10人に1人といわれています。橋本病は経過観察で済むことも多く、甲状腺機能が低下している場合のホルモン補充療法を行います。

甲状腺ホルモンに異常があるかどうかは血液検査で分かります。若い人は月経不順や精神症状、不妊や産娠の原因にもなります。高齢者では、心疾患や高血圧、うつ病や認知症など他の病気に隠れている場合があり、注意が必要です。

5月25日は「世界甲状腺デー」。日本では20人に1人が甲状腺に何かの疾患があるといわれています。甲状腺の働きや仕組み、治療法への理解を深めらるおと5月29日、「知ってほしい甲状腺のこと」と題した市民健康講座（大阪よみうり文化センター主催、日本甲状腺学会、日本内分泌外科学会共催）がよみうり神戸ホールで開かれました。



講演

「甲状腺にできものがあるって言われたら？」

木原 実 慢病院 外科医長



甲状腺のできものは、医学的には腫瘍（結節、しこり）、で、9割が良性。自觉症状はない患者が多く、健診などで偶然みつかることが多いです。超音波検査で腫瘍が確認されれば穿刺吸引細胞診を行い、良性か悪性かを判断します。

良性腫瘍の場合は経過観察が基本ですが、まれにがんを合併したり増大したりするので定期的な検査は必要です。悪性腫瘍でも、一般的に他のがんに比べておとなしいといわれています。治療は手術、アイトープ治療、放射線照射、抗がん剤などがありますが、がんの種類や患者さんの状態によって治療法を選択します。悪性の甲状腺腫瘍の中でも、90%以上を占めるのが乳頭がんです。その中でも1cm以下のものを微小がんといいますが、増大・転移する可能性が低く、必ずしも治療が必要なわけではありません。当院では1993年から低リスク微小がん患者には経過観察を勧めており、当院等のデータをもとに日本・米国との最新のガイドラインにも記載されています。

高橋裕・旗谷雄二・木原実

——甲状腺ホルモンの薬は一生飲まなければいけないのでしょうか？ 検査結果はよくないです。

旗谷 薬をやめてしまうと甲状腺機能低下症に戻ってしまいます。橋本病は慢性の病気なので、ずっと飲み続ける必要があります。

高橋 自分の判断で薬をやめることは危険です。必ず医師と相談してください。

——0.6cmの乳頭がんを見つかりました。

木原 微小な乳頭がんであれば経過観察でいいかと思いますが、神経に近いなど場所によっては手術を含む場合もあります。また、がんがあることが不安で手術を希望される方もいます。甲状腺を取ることでホルモン補充療法が必要になるなど、メリット・デメリットをよく理解した上で判断してください。

（特別協賛）あすか製薬 協賛 Abbott Canon クラフト株式会社 COSMIC CORPORATION FUJIFILM ヤマサ醤油株式会社 主催：大阪よみうり文化センター 共催：日本甲状腺学会 日本内分泌外科学会 後援：読売新聞大阪版

5月25日は
世界甲状腺デー
(World Thyroid Day)

市民健康講座・京都会場

知ってほしい 甲状腺のこと

こうじょうせん

講演

「甲状腺ってなに？」

浅野 麻衣 京都府立医科大学附属病院 内分泌・糖尿病・代謝内科 学内講師



甲状腺は喉のすぐ下にあり、蝶が羽を広げた形をした臓器です。甲状腺では甲状腺ホルモン（トリヨードサイロロン:T3、サイロキシン:T4）が作られ、たんぱく質と一緒に血液中に流れ全身の細胞に届けられています。その中にわざわざ存在する結合していない遊離型ホルモン（T3・T4）が全身の新陳代謝を活性化させ、胎児の発育や子どもの成長を促します。

甲状腺ホルモンはヨウ素から作られます。ヨウ素は昆布などの海藻類に多く含まれ、適度な摂取は大切ですが、過剰に摂取すると甲状腺ホルモンの合成が妨げられるかもしれません。

甲状腺ホルモン一定量の量に調整しているのが、下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン（TSH）です。TSHは血液中の甲状腺ホルモンのほんの少しの変動にも反応します。血液検査ではこれらのホルモンの値を調べ、甲状腺の状態を判断します。

講演

「甲状腺機能低下症」

三浦 晶子 洛和会音羽病院 内分泌内科部長



甲状腺ホルモンの働きが低下した状態が「甲状腺機能低下症」です。代謝が低下し、寒がり、皮膚の乾燥、無気力、声が弱などの症状が出ます。診断は、これらの症状と血液検査でのFT4、TSHの値から判断します。

原因としては最も多いのが「橋本病」。慢性炎症で甲状腺全体会が腫れ、約4割に甲状腺機能低下症が起こります。ごく初期も含めると成人女性の10人に1人といわれますが、橋本病と診断されても甲状腺機能が正常なら治療は必要ありません。機能低下があれば、ホルモン補充療法を行います。特に妊娠を希望する場合は、不妊や流産、早産のリスクがあるので、早めに治療しておく必要があります。

甲状腺ホルモンを補う薬は胎児に悪影響はありません。また出産後は甲状腺機能が変動しやすく、産後うつの原因になっている場合もあります。

5月25日は「世界甲状腺デー」。日本では20人に1人が甲状腺に何かの疾患があるといわれています。甲状腺の働きや仕組み、治療法への理解を深めらるおと5月29日、「知ってほしい甲状腺のこと」と題した市民健康講座（大阪よみうり文化センター主催、日本甲状腺学会、日本内分泌外科学会共催）が京都丸ごとエンターテイメントホールで開かれました。



5月25日は
世界甲状腺デー
(World Thyroid Day)

市民健康講座・大阪会場

知ってほしい 甲状腺のこと

こうじょうせん

講演

「甲状腺ってなんですか？」

豊田 長興 関西医科大学医学部内科学第二講師 教授



甲状腺は喉の下にある蝶が羽を広げた形をした臓器です。気管を抱き込むように存在しています。病気のために腫れたり硬くなったりしない限り、首をもつて触っても確認することはできません。昆布などの海藻類に多く含まれるヨウ素から、全身の代謝を促進したり血中コレステロール値を低下させる働きのあるホルモンを作って血液中に分泌しています。しかし、原料であるヨウ素が大量にあるとホルモンの合成を止してしまいます。昆布の取りすぎに注意が必要と言われるのはこのためですが、極端に制限する必要はありません。また、ういのう、うつ病や不眠症の薬にヨウ素が含まれているものもあり、副作用で甲状腺ホルモンの値が下がることがあります。飲み合わせの悪い薬もあるので、眼科機関を受診したら甲状腺の病気があることや服用中の薬があることを伝えてください。

甲状腺ホルモンは、心臓や脳、神経などにも作用し、体の働き方を調整しています。多すぎると脈拍が増えて悸動を自覚したり、不足していると物忘れが多くなったりする症状が表れます。循環器内科を受診して甲状腺の病気が見つかることや、高齢であれば認知症だと間違われるケースも少なくありません。

講演

「甲状腺ホルモンのバランスが崩れたとき」

金本 巨哲 大阪市立総合医療センター 内分泌内科部長



甲状腺ホルモンの分泌は、過不足のないように脳によってコントロールされています。何らかの理由で、この調節機能が破綻するとホルモンの病気として現れます。甲状腺の病気には特有の症状が少なく、よく汗をかく、疲れやすい、手や足がむくむ、気力がないなどの何気ない症状の中には甲状腺の異常が隠れています。

甲状腺ホルモンが過剰になる場合を甲状腺中毒症といい、代表的なものにバセドウ病があります。遺伝の素因と環境の要因が重なって免疫システムに異常が起こり、甲状腺を刺激してホルモンを作り続けます。薬物治療、手術、放射線治療ではそれぞれ事前の準備が異なります。

5月25日は「世界甲状腺デー」。日本では20人に1人が甲状腺に何かの疾患があるといわれています。甲状腺の働きや仕組み、治療法への理解を深めらるおと5月29日、「知ってほしい甲状腺のこと」と題した市民健康講座（大阪よみうり文化センター主催、日本甲状腺学会、日本内分泌外科学会共催）が関西大学梅田キャンパスで開かれました。



特別協賛）あすか製薬 協賛 Abbott Canon クラフト株式会社 COSMIC CORPORATION FUJIFILM ヤマサ醤油株式会社

主催：大阪よみうり文化センター 共催：日本甲状腺学会 日本内分泌外科学会 後援：読売新聞大阪版

講演

「甲状腺のしこり（診断と治療、積極的経過観察）」

宮内 昭 摂病院 院長



甲状腺が全体に腫れると、バセドウ病や橋本病などのびまん性甲状腺腫で、ホルモンの過剰・不足をきたす病気が考えられます。一方、一部に腫れるのは結節性甲状腺腫といい、良性または悪性の甲状腺の腫瘍を疑います。しこりが認められた場合、大きさの変化をみてきます。甲状腺がんは非常に多く、手術で完治します。甲状腺を切除しても甲状腺機能低下症になった場合は甲状腺ホルモンの服用が必要になります。

甲状腺がんは他のがんに比べて急増しているという研究がありますが、死亡率は横ばいで増加していません。検査技術の向上で微小な乳頭がんが見つかることになった結果で、その多くは治療の必要はありません。治療の必要がないがんは前向きに経過観察することで、万一の転移などを早期に見できます。

悪性腫瘍にはいくつ種類があり、がんによって性質が違うため適切な治療法も異なります。血液検査、超音波検査、細胞診などで、どのがんかを特定します。約90%が乳頭がんと診断され、一般的には手術になります。しかし、微小がんと呼ばれる最大径が1以下で低リスクの乳頭がんであれば、すぐに手術をせず、半年や1年ごとの検査で進行が確認されてから手術を行う積極的経過観察を勧めています。微小がんの大部分は増大・進行しないことや、手術の有無や時期にかかわらず、いずれも結果は良好なことが確認されています。とは言っても、進行する微小がんもあるので、定期的な検査は必要です。